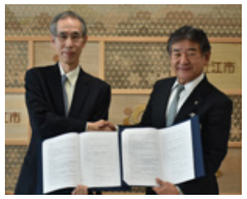
東近江総合医療センタートピックス

当センターでは最近こんな事がありました

東近江市との基本協定締結について

当院は、平成22年1月の「滋賀県地域医療再生計画(東近江医療圏)」、平成22年6月の「東近江市病院等整備計画」この両計画の中で「限られた医療資源を集約化し、東近江市立の2病院(能登川病院、蒲生病院)と国立病院機構滋賀病院を再編成し、320床の中核病院とする」事が決定され、「東近江総合医療センター」として生まれ変わりました。市立病院から移譲された病床を「東近江市メディカルサポートセンター」として、平成25年4月から10年間、東近江市の指定管理を受け、国立病院機構と東近江市が共同し、東近江市の中核病院として、一般医療のほか、地域で不足していた救急医療、産科医療、小児医療の提供に取り組んでまいりました。また同時に地域医療の将来的な展望も視野に入れて、寄附講座を滋賀医科大学内に設置、教育研究の活動拠点を東近江総合医療センター内に設け、医師を中心とした医療従事者の育成にも取り組んできました。

この度、東近江市と今後の地域医療についての協議を重ね、令和6年4月から5年間の新たな指定管理協定の締結を行いました。この協定の中で、救急医療、周産期医療、小児医療の更なる充実とともに、精神医療・神経医療等の分野など、今後、地域で必要となる医療の把握、体制構築に両者共同で取り組むこととなっています。
東近江市、当院の取り組みは、地域医療を改めて構築していく、新たな第一歩になると考えています。



INFORMATION

当センターからのお知らせや情報をお届けします。

マイナ保険証を１度使ってみませんか？

当センターでは、マイナンバーカードが健康保険証として利用できます。窓口に設置されている顔認証付きカードリーダーにマイナンバーカードを置いていただくことで、簡単に認証(マイナ受付)ができます。マイナ受付をご利用いただくことで、他の医療機関で処方された薬剤情報や特定検診の情報を、当センターの医師がオンラインで確認できるようになり(顔認証付きカードリーダーで「閲覧に同意する」を選択した場合のみ)、また、患者さんの自己負担額の軽減にもなります。顔認証付きカードリーダーは初診受付及び計算受付カウンターに設置しており、マイナ保険証での保険確認を推奨しておりますが、まだまだ利用者が少ないのが現状です。マイナンバーカードをお持ちの方には積極的にご利用をお願いいたします。

	初診	再診	調剤
マイナ保険証	20円	0円	10円
従来の健康保険証	40円	0円	30円

※患者さん負担額は上記金額の2割または3割になります。

学会受賞報告

演題名　痛風性関節炎により全身性炎症反応症候群(SIRS)を来した一例

発表者　岡本真明、中島興、前野恭宏、杉本俊郎

講演会　日本内科学会 ことはじめ 2024東京

受賞名　優秀演題賞

考　察　リンパ腫が基礎疾患としてある場合、核酸代謝の亢進により血中尿酸値は上昇しやすいが、それにより来した痛風発作でSIRSまで来した症例報告は検索しうる限りでは認められなかった。(痛風発作によりSIRSまで来した症例報告は2件。1999年英国と2023年米国のみ。)SIRSの場合は、手指関節も含めて診察し、関節に炎症・腫脹があれば痛風性関節炎の可能性も考慮する必要があると考える。

周辺地図

アクセス

公共交通機関ご利用の場合

電車▶バス

ＪＲ東海道本線「近江八幡駅」下車、近江鉄道に乗り換え「八日市駅」下車。
【近江鉄道バスご利用の場合】
「東近江総合医療センター」または「五智前」下車。
【コミュニティーバス(ちょこっとバス)ご利用の場合】
市原・沖野玉緒・南部御園線「東近江総合医療センター」下車。

高速バス

名神高速バス「名神八日市」下車、東方へ徒歩約5分。

車をご利用の場合

名神高速道路「八日市IC」から約2分。
「八日市IC」を出て1つ目の信号を右折し約300m先右側。

独立行政法人 国立病院機構
東近江総合医療センター
滋賀医科大学地域医療教育研究拠点病院

広報誌 つながり vol.052 2024年6月号
独立行政法人国立病院機構 東近江総合医療センター 広報委員会
〒527-8505 滋賀県東近江市五智町255　TEL：0748-22-3030(代表)　FAX：0748-23-3383

東近江総合医療センター 広報誌　Vol.052

つながり

対談　2つの診療科をセンター化へ

総合力を最大限に発揮するため 呼吸器センター、消化器センターを開設

外来診療部長
呼吸器センター長
尾﨑 良智 Ozaki Yoshitomo

×

消化器センター長
伊藤 明彦 Ito Akihiko

病院からの
最新情報を
お届けします！

独立行政法人国立病院機構東近江総合医療センター

対談 2つの診療科をセンター化へ

総合力を最大限に発揮するため 消化器センター、呼吸器センターを開設

東近江医療センターは、より質の高い医療の提供と地域治療への貢献を目指し、2024年4月1日に「消化器センター」と「呼吸器センター」を開設しました。特集では、このたびのセンター開設によってこれまでの診療と比べてどう変わるのか、さらには現在の取り組みや今後の展望について、それぞれのセンター長にうかがいました。

センター化することで診療の質向上の推進力に

伊藤 消化器センター長（以下敬称略）：2024年4月1日に消化器センターと呼吸器センターが開設されたわけですが、同期の二人が同時にそれぞれのセンター長として就任し、取材を受けているのはなんとなく不思議な感覚ですね。

尾﨑 呼吸器センター長（以下敬称略）：月日が経つのは本当に早い（笑）。さて、消化器センターと呼吸器センターが開設された主な目的としては、「当院の医療の質向上」、「病院完結型の医療から地域完結型の医療への移行」、「地域の医療機関との連携強化」が挙げられます。

伊藤：地域の中核病院の役割を担っている当院では、センターを開設する前からこうしたことに取り組んできました。呼吸器も消化器も一貫して診療の質向上に取り組んできて、土台を築いてきたました。ですから、センター化することで診療内容が大きく変わることはありません。良いところは変えずに維持しながら、土台の上に新たな強みを積み上げていくことが大事で、その柱になるのがセンターだと考えてます。

尾﨑：目標のひとつである「地域完結型の医療」の実現は時間がかかる取り組みですが、センター化することが診療内容をさらに向上させる推進力になるのは間違いないでしょう。

内科・外科を問わず トータルで診る体制が強み

伊藤：センター開設の背景をお話しした方がわかりやすいと思うので少し触れると、東近江エリアは10年以上前、深刻な医師不足という問題を抱えていました。そんな厳しい状況のときに私は当院に赴任したのですが、当時、前院長の井上先生と尾﨑先生が中心となって常勤の医師を多く確保するなど、呼吸器治療の充実に向けて力を注いでおられました。消化器に関してもこの10年間で滋賀医科大学から医師が派遣されるようになったことに加え、教育に力を入れるなど体制強化を図り、ようやく地域のニーズに応えられるようになってきました。こうしたことは少しずつ地域の医療機関や住民の方々にも認知していただけるようになってきたと感じています。このような取り組みを発展させていくうえで、センター開設は有効です。

尾﨑：当院の呼吸器治療については、20年近くかけて呼吸器内科・呼吸器外科を問わず安定して医療を提供できる体制をつくってきました。伊藤先生が言うように、当院が呼吸器治療に力を入れていることは一部の方には認知してもらえるようになったものの、まだまだ十分ではないという想いがあるのが正直なところです。センター化したことを地域に発信することで、多くの方に診療を受けていただけるきっかけになればと思っています。

伊藤：院外に向けてのPRに加えて、先ほど話題に上がった診療の質向上につながる効果もあるでしょう。スタッフのスキルアップはもちろんのこと、意識も上げていきたい。そして多くの患者さんにセンターを利用していただくことで、スタッフや設備を拡充することができる。そういった相乗効果を生むサイクルをつくっていきたいですね。

尾﨑：そうですね。全国的にいえることですが、呼吸器は内科医の数が少なく、滋賀県も例外ではないので、センター化を機に層を厚くしていきたいと考えています。それからもうひとつセンター化するメリットとして、内科で診てもらった方が良いのか、外科で診てもらった方が良いのか判断がつかない場合、内科・外科の垣根がないセンターがあることで、かかりつけ医の先生が紹介しやすくなる。呼吸器は特に専門でないと呼吸器内科・呼吸器外科のどちらで診るのが良いのか判断がむずかしいので、トータルで診ることができるセンターの存在は大きい。

伊藤：内科と外科の垣根がないことは、緊急疾患に対する迅速な対応にもつながる重要なポイントだと思います。

さまざまな診療科と連携し、個別性の高い診療を展開

伊藤：消化器センターは、食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・肝臓・胆のう・膵臓など、消化器の疾患に対して、消化器内科と消化器外科に加え、放射線科や病理診断科が一体となって患者さんの状態に応じた個別性のある診断・治療を行っています。また、消化管出血などの緊急内視鏡が必要な場合や、消化管穿孔などの緊急手術に対応するため、24時間365日オンコール体制を整えています。日々の診療では切れ目のない積極的な連携を重視していて、定期的に行なっている合同カンファレンスもそのひとつ。しっかりと情報共有をすることで、内視鏡治療を行うのか、外科治療を行うのかといった治療方針の決定や、手術を行う際の内科から外科へのスムーズな引き継ぎなどにつなげています。また、当院の放射線科に消化器に関する専門的な知識を持った医師が所属していることも大きな強みです。

尾﨑：呼吸器センターでは、呼吸器の腫瘍や感染症、アレルギー、閉塞性肺疾患、びまん性肺疾患をはじめとする幅広い疾患の治療を実施しています。呼吸器内科と呼吸器外科がしっかりと連携している点は消化器センターと同じで、週に数回、合同カンファレンスを開いており、それぞれの専門性を発揮した検査（気管支鏡検査、胸腔鏡検査、縦隔鏡検査など）や、治療（一般的な手術、低侵襲手術、放射線治療、薬物治療など）を行っています。新しい効果的な検査や治療を積極的に取り入れている点も特色です。

伊藤：“センターでの連携”と言うと、医師同士の関係をイメージされがちですが、決してそれだけではなく、看護師や内視鏡技師、放射線技師、臨床検査技師など、いろいろな職種との協力関係が欠かせません。

尾﨑：それは本当に大切。いくら医師に知識や技術があっても、多職種の力がなければ何もできない。ですので、日頃からコミュニケーションは重視しています。

伊藤：医師の教育についても触れておきたいですね。これまでの『つながり』でも紹介されていたように、当院は滋賀医科大学地域医療教育研究拠点として、医学生と研修医の教育に注力しており、加えてセンターに所属する医師や多職種のスタッフに対してもスキルアップするための学習の場を設けています。

尾﨑：消化器、呼吸器どちらのセンターも幅広い診療を行なっているので、幅広い視野や知識を身につけるうえでとても良い環境といえるでしょう。たとえば、一人ひとりの患者さんのゴールを共有して、異なる診療科や部門とどのように連携をとりながら検査・治療を進めていくのかといったアプローチを、実践を通じて学ぶことができる。そして、その過程でひとつの診療科だけでは得ることのできない知識も多く吸収できます。単に多くの症例を経験するのではなく、スタッフと情報や意見を交わして、そこから学ぶことが重要なんです。そういう活発なコミュニケーションをとる姿勢についても、両センターともに根づいていると思います。

伊藤：今後の展望としては、まずはこれまで通りスタッフの連携強化に努め、スキルと意識の向上を目指したいと考えています。そうした地道な取り組みの積み重ねが最も大切ということは、これまでの経験で実感していますから。そのうえでスタッフや設備の充実を図りたい。もちろん地域の医療機関や住民の方々とのより良い関係づくりにも力を入れたいです。

尾﨑：そうですね、継続は大事。呼吸器関連の話でいうと、結核をはじめ呼吸器感染症は多く、当院では16床の結核病棟と先駆的な医療を提供する4床のモデル病床を有しています。こうした呼吸器治療に関する情報発信や、感染対策の啓発活動にも力を入れていきたいですね。そして地域完結型の医療の実現に向けて、当院のセンターがその一翼を担う存在になるように努めていきたいと考えています。

Profile

消化器センター長
伊藤 明彦

滋賀医科大学医学部 卒
消化器内科
2014年4月 消化器内科医長
2024年4月より現職

外科診療部長／呼吸器センター長
尾﨑 良智

滋賀医科大学医学部 卒
呼吸器外科
2008年4月 呼吸器外科医長
2015年4月より現職

教えて！
東近江総合
医療センター

東近江総合医療センターの

診療科をご紹介

東近江総合医療センターの診療科をご紹介していきます。

総合内科

総合内科医長
糖尿病・内分泌内科　医長
前野 恭宏

患者さんを全人的に診る総合内科のニーズが高まる

総合内科という診療科は、以前と比べて医療従事者以外の方々の認知度も上がってきましたが、まだ、どのような診療を行なっているのかまで伝わっていないケースも少なくありません。総合内科の特徴は、特定の領域や臓器に捉われず、患者さんの状態を全人的に診る点です。

患者さんは、自覚症状はあるものの、どの診療科で診てもらえば良いのかわからない場合が多くあります。そうした方の窓口的な役割を担うとともに、診断のつかない方や、複数の疾患を持っておられる方の治療を行なっています。一般的な内科は、消化器や循環器など、臓器や領域ごとに分かれていて、それぞれの医師が診断・治療を行うため、場合によっては一貫性に欠ける治療になってしまうリスクがあります。さらに、複数の疾患にかかり服用する薬が増えて、薬の相互作用や飲み忘れ、飲み間違いが起こるポリファーマシーが近年増えています。こうした問題に関しても、総合内科の主治医が患者さんを総合的に診ることで、リスク低減につながるのです。

東近江エリアにおいても住民の方々の高齢化が進み、複数の疾患が複雑に影響を及ぼしている状態の患者さんが増えているため、総合内科のニーズは高まっているといえるでしょう。

専門性の高い医師が連携して幅広い診療を実施

当院の総合内科の大きな特長として挙げられるのが、幅広い診療を行いながら、専門領域を持った医師たちが診療にあたっていることです。たとえば、私の専門は糖尿病・内分泌で、その他にも消化器や循環器、呼吸器、腎臓などに関する優れたスキルを備えた医師達が所属しています。そして、こうした強みを活かし、曜日ごとにさまざまな専門を持つ医師が交代で総合内科外来を行なっています。

また、当院全体にいえることですが、各科の医師や多職種との連携を重視しています。そのひとつとして取り組んでいるのが、毎朝行われるカンファレンスです。内科関連のすべての医師が参加して、前日に入院された患者さんの状態を共有し、それぞれの視点から意見を発信することで、より精度の高い診断・治療につなげています。専門の異なる医師同士が毎朝顔を合わせることを通じて、助け合いの精神や風通しのよい関係の構築にも大変役だっています。

医師の育成に力を入れて地域医療の発展に貢献

もうひとつ当科が力を入れているのが、医師の育成です。10数年前、東近江エリアの中核病院である当院は深刻な医師不足の問題を抱えていて、地域医療が崩壊する危機的な状況でした。この問題を解決するために、滋賀医科大学から当院へ医師を派遣する連携体制がつくられ、地域の方々に安定して質の高い医療を提供できるようになりました。それを機に当院に滋賀医科大学総合内科学・外科学講座が設置され、地域医療教育研究拠点として医学生と研修医の教育を担うようになったのです。こうした経緯があり、教育に対して高い意識を持った医師が多く所属しており、積極的に指導にあたっています。

その取り組みのひとつとして、先ほどお話したカンファレンスに医学生や研修医にも参加してもらい、幅広い視野や知識、アプローチの仕方などを学べるようにしています。こうした教育を通じて次代を担う医師を育てることが、地域の方々に安心して医療を受けていただける基盤になると考えています。

当科のモットーである患者さん中心の診療を徹底

「患者さんを中心とした診療」が当科のモットー。一方的に治療方針を決めるのではなく、患者さんの生活背景や今後の生活への想いにも耳を傾け、できる限り納得していただいたうえで治療を行うように努めています。今後もこの姿勢を守りつづけ、また医師の育成にもより一層注力したいと考えています。

そして、近隣の診療所との連携を重視し、ここなら安心して患者さんを紹介できる、患者さんを紹介してよかったと思ってもらえるような病院を目指しています。

まだ希望の範疇ではありますが、地域の医療機関に加え、介護関係の方々との関係構築にももっと積極的に取り組みたいですね。医療に携わる多職種の参加できる研究会はあるのですが、介護関係者も参加できる研究会はあまりなく、そういったものを開催し意見・情報を交換する場があれば、医療と介護、双方にとってプラスになることはたくさんあるでしょう。いろいろクリアすべきことはあるかもしれませんが、実現できればと思っています。

総合内科 若手専攻医の声

東近江総合医療センター内で活躍中の未来を担う若手専攻医の皆さんに仕事への思いを伺いました。

専攻医4年目
中島 興

垣根のない環境で幅広い視野と知識を習得

総合内科では診断のつかない方や、複数の疾患を持った方を診ることが多いため、医師は幅広い視野と知識が求められます。そうしたスキルを身につけるための重要な要素となるのが、タテ・ヨコの切れ目のない関係です。タテの関係においては、キャリアを問わず上長や先輩にも気兼ねなく相談でき、診療をするうえで大切なことを吸収できます。ヨコの関係についても他科の先生や多職種の方々と連携をとる環境が根付いていて、視野が広がりました。

当院は地域の中核病院の役割を担っているので、医療機関からのご紹介に対応できるよう努めたいと考えています。

専攻医2年目
小田原 ゆう子

経験豊富な先生のアプローチを間近で見ることで学習

東近江総合医療センターに勤務して1年目の今は、任せていただいた仕事を確実に行うことで精一杯の状態です。時には一人で判断するのがむずかしいこともありますが、先輩方がしっかりサポートしてくださるので安心感があります。医師が不安だと患者さんにも影響してしまうので、当科の風通しの良い環境はありがたいです。

若手医師の教育を重視している点も当科の特長だと思います。カンファレンスでは、経験豊富な先生方のアプローチをダイレクトに見ることができ、多くのことを学べます。早く一人前の医師になって、患者さんの力になることが今の目標です。

教えて！
東近江総合
医療センター

各部門のお仕事がより分かる！

東近江総合医療センターの部門紹介

今回ご紹介する部門は

薬剤部

薬剤部ってどんなところですか？

薬剤部は どのような仕事をしている所？

薬剤部は、薬剤部長を含め薬剤師16名、薬剤助手1名、業務技術員3名で薬剤部門業務を行っています。医薬品の納入・管理（薬務業務）、処方に基づく調剤・交付（調剤業務）、患者さんへのお薬の説明（薬剤管理指導業務）、医薬品の有効性、安全性等の情報収集・管理（医薬品情報管理業務）に加え、病棟での医薬品の安全使用に関わる管理（病棟薬剤業務）、新薬開発のための臨床研究（治験）等のサポート（治験管理業務）等、医薬品に関わる業務から診療を支援しています。また、医師・看護師・コメディカル等のスタッフと連携し、医療チームの一員として糖尿病教室・感染対策チーム・栄養サポートチーム・褥瘡対策チーム・緩和ケアチームなどに薬剤師が積極的に参画し、薬の専門職としてチーム医療にも貢献しています。

薬のプロ集団

処方された薬が患者さんに適切か、相互作用（飲み合わせ）に問題がないか確認し、副作用の発現にも注意を払い、質の高い薬物療法の支援を行っています。近年、薬の多剤服用に伴う有害な事象の発生、もしくは、その事象が起きやすい状態を指すポリファーマシーの問題にも薬剤部として積極的な関与も開始しております。より良い薬物療法の実現のため、引き続き、薬剤部一丸となって頑張ってまいります。

HOSPITAL DIRECTOR'S MESSAGE 新年度の院長挨拶

“東近江総合医療センターの進むべき方向”

院内から院外へ

令和5年4月より院長に就任し1年が経過しました。この1月に発生した能登半島地震で被災され困難な生活を強いられておられる皆様に心よりお見舞い申し上げます。

当センターが地域から求められている役割は「地域に根ざした中核病院」です。地域住民が求めている医療に答えるためには、各医療機関が自らの利益を追求するだけでなく、各々が得意とする機能を中心に、各医療機関が連携して支え合い、適切な医療を地域住民へ提供することが必要となります。当センターは11年前の病院改築後、滋賀医科大学と連携しつつ医師の人材確保を進め、救急医療を中心としつつ、小児科・産科医療を展開し、対応可能な診療科を増やし、各診療科とも一定の評価をいただいております。今後も院内活動に留まらず、地域医療における診療サポート、地域で働く医療職向けの研修会開催、住民への啓発活動などの院外活動を通して、各医療機関との役割分担を明確化しつつ地域医療の質の向上に努めていきたいと考えております。

「滋賀医科大学 地域医療教育研究拠点」として滋賀医科大学との連携のもと地域医療に必要な人材を育てる役割も重要と考えております。総合内科学講座と総合外科学講座の医師が協力し各領域の専門性を維持しつつ救急体制を整えております。今後も複数の疾患を有する高齢者の救急対応の重要性が高くなることが予想され、各診療科の医師には専門性のみならず総合力や人間力が必要となります。

昨年度にクラウドファンディングで購入させていただきました救急車は能登半島地震における医療班派遣においても活躍しております。ご支援をいただきました皆様には改めて感謝申し上げます。コロナが徐々に収束しつつある中、昨年度後半からは院内では外来・入院の患者さんの心を癒すようなイベントも開催しております。本年度からはコロナを理由とした診療への影響を極力軽減する必要があります。また、全職員が安心・安全に働ける環境作りを進めつつ、地域の行政機関、医療機関の皆様との良好な関係を構築しながら、地域から信頼される病院を目指していきますので、宜しくお願い申し上げます。

連携室だより 当センターからのお知らせをお届けします。

有料個室の市民割を始めました

当センターでは、令和6年4月1日より、有料個室の料金を改定するとともに、東近江市民の皆様向けに、割引料金を設定いたしました。当センターの有料個室は、お見舞いの方もゆったりとおくつろぎいただけるよう、全室総室2床分以上の広さを確保しており、総室の設備に加え、専用ロッカーやエアコンを完備しています。さらにAタイプのお部屋には専用ユニットバスやWi-Fiも完備、毎朝お好みの新聞を無料配布するなど、充実した設備で患者さんの療養生活をサポートいたします。入院生活中の苦痛を和らげ、プライバシーの守られた個室で、治療に専念していただけますので、ご入院の際はぜひ有料個室のご利用をご検討ください。

当センターはこれからも地域の皆様に快適な療養環境を提供できるよう、サービスの向上に努めて参ります。

Aタイプ

Bタイプ

有料個室料金表（令和6年4月～） ※保険適用外ですので、全額自己負担となります。

個室タイプ	部屋数	価格	
		市内	市外
A	3	13,200円	16,500円
B	10	9,900円	12,100円
C	25	7,700円	9,900円
D	8	9,900円	12,100円
G	8	6,600円	8,800円
H	5	2,200円	3,300円